

# ALK融合遺伝子標本作製

## 検査内容

非小細胞癌においてALK阻害剤の投与の適応を判断することを目的とし、FISH法により遺伝子増幅標本作製を行う。EGFR遺伝子解析を同時にご依頼の際に、EGFR遺伝子に変異が見られた場合は本検査は省略させていただきます。

## 提出方法

10%～20%ホルマリン水溶液固定組織（6から48時間以内を推奨し病理診断後の検査とさせていただきます。）

病理組織診断済みのパラフィンブロックでの提出

未染色標本での提出

遺伝子解析用 シラン等のコーティングのスライドにて3～4 $\mu$ mの厚さで3枚以上作製して下さい。

腫瘍確認用 2～3 $\mu$ mの厚さで2枚提出して下さい。（HE染色を行います。）

## 判定内容

2p23 (ALK) 領域を介した転座陽性細胞の存在を確認します。

※「肺癌患者におけるALK遺伝子検査の手引き」参照